



A O I 国際病院 Times

VOL. 32 冬号

目次

- P1 新年のご挨拶
- P2 看護師長さんに聞きました
- P3-4 おしえて！
ドクターインタビュー
～循環器内科 川端先生～
- P5 患者満足度調査結果
- P6 おいしいページ(栄養部)
- P7 編集後記

病院の理念

地域の皆様に信頼していただける、質の高い医療を提供します。

基本方針

1. 救急医療から、一般急性期、回復期、慢性期、緩和ケア期までのシームレスな総合医療を提供します。
2. 川崎市臨海地域病院として、各医療機関、保健福祉機関と密接に連携します。
3. 生活習慣病健診を充実させ、予防医学に貢献します。
4. 運営の持続的安定を確保し、病院としての責任を果たします。
5. 職員が誇りを持てる働き甲斐のある病院を目指します。



新年のごあいさつ



院長 古川 良幸

新年あけまして

おめでとうございます

2024年新たな年を迎え、withコロナから1年の時を経て、地域の先生方や地域住民の皆様には多くのご支援やご鞭撻をいただき、無事に乗り越えることができました。

AOI国際病院も10年の節目を迎え昨年の12月に長期療養病棟60床を障がい者病棟へ移行するという決断をいたしました。この障がい者病棟は重度の肢体不自由、重度の意識障害、神経難病などを有する患者さまが入院対象となります。

この病棟の再編成に伴い多くの患者さまやご家族さま、地域の先生方にご理解ご協力をいただき深く感謝しております。

これからは、救急医療、一般急性期、回復期、長期療養、障がい者、緩和ケア期までの医療を担うべく、スタッフ一同精進していく所存です。

そしてコロナで混乱した医療体制の中、当院の職員全員が、患者さまの安全で安心な医療体制を守るべく奮闘してきてくれました。院長として誇りに思う次第です。

当院の病院理念に「地域の皆様に信頼していただける、質の高い医療を提供します。」とありますが、この理念を支えるべくは当院で働く職員が誇りを持ち働き甲斐のある職場であることが大変重要であると常々思うところであります。

Withコロナと言われるこの状況の中でより多くの職員が離職せずにとどまってくれる病院であり続けることも、大きな課題であると考えています。地域医療を支えるべく、職員が働き甲斐をもてる病院環境にも力を入れていく所存です。

本年も何卒宜しく願いいたします



第4回

看護師長さんに聞きました



8F 緩和ケア病棟
 かの
菅野看護師長

今回は緩和ケア病棟の菅野師長にお話を聞きました。師長としての病棟管理だけでなく、緩和ケア認定看護師として、活躍されています。

Q1.なぜ認定看護師になったのですか？

私は新卒で180床程度の急性期病院に就職し、1年目から透析室で“人”を看る看護を学びました。その後病棟勤務を経て様々な分野の看護を学びました。

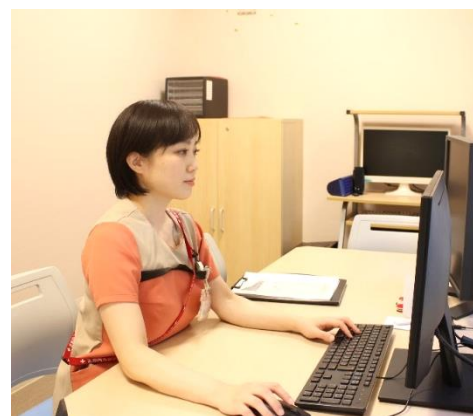
多くの方は緩和ケアと聞くと「終末期ケア」と思われていると思いますがそうではありません。緩和ケアは最期の治療でもなく、死を早めるものでもありません。どのような病気でも、病気を持っている方、そしてそのご家族は悩み、苦しんでいます。病気によって生まれる苦しみを予防、緩和することで生活の質を上げること、そして患者さまやご家族が自分らしい生活を送れるようにすること。それが緩和ケアです。

緩和ケアは特別なものではなく、終末期ケアでもなく、看護の基本、本質だと思います。

それをより深く学び、緩和ケアを広めたいと思ったので循環器、内分泌病棟で働いている時に認定看護師を取得しました。

Q2.緩和ケアを選択してよかったと思えることは？ 働く中で、やりがいを感じるのはどんなときですか？

緩和ケア病棟は、病気を治して元気になって退院される方はいません。病気を治すことが目的ではないので、正解がない分野でもあります。また、大切な人との別れの場所となることが多いため、ご家族にとっては辛い場所になります。しかし、ここに来ることができて良かった、ここで最期を迎えることができて良かったと言ってくれる方がたくさんいらっしゃいます。本当にありがたいことで、「私たちがやっていることは間違っていないんだ」「これでよかったんだ」「頑張ってきてよかった」と思うことができ、明日への活力になります。



Q3.師長として大切にしていることはありますか？

自分の意見を押し通したり、自分の思い通りにスタッフを動かすのではなく、スタッフの意見を聞くこと。何事も根拠を持って説明すること。自分も時にはケアに入り、背中を見せつつスタッフの目線で病棟を見ることです。

患者さんやご家族が「ここに来てよかった」と思ってもらえるのと同じように、スタッフにも「ここで働くことができてよかった」と思ってもらえるような病棟にするために日々頑張っています。



Q4.師長になって・・・

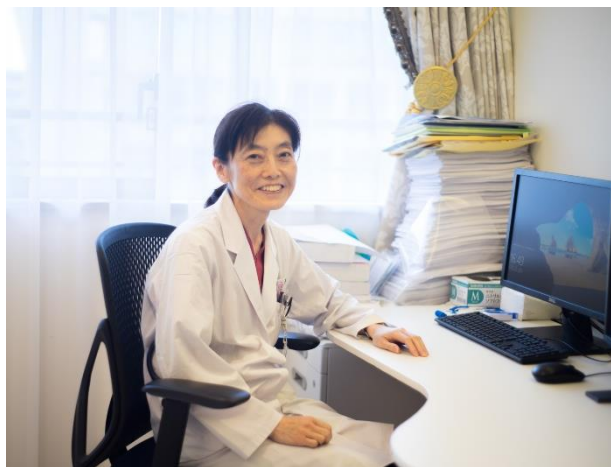
体力がなくなりました。スタッフナースとして働いている時に比べて動く量が激減したことにより、体力は落ち、体重は増えました。

院内では極力階段を使ったり、プライベートでは走ったりして、さらに体重が増えないよう気を付けています。

緩和ケア病棟では、季節毎に飾り付けを行い、週に1回はお茶会を開くなど、患者さま同士・職員との交流を行っています。インタビュー当日はクリスマスの飾り付けを行っている最中でした。職員が手作りしたものもあり、あたたかい雰囲気を感じます。

第8回

教えて！インタビュー



**循環器内科
不整脈先端治療センター 副センター長**

かわばた みほこ

川端 美穂子 医師

もっと皆様に当院のことを知っていただきたくAOI国際病院で働く医師をご紹介します。

第8回目は、川端 美穂子 先生にお話を伺いました。

先生はAOI国際病院 不整脈先端治療センター副センター長としてもご尽力されています！

経歴

東京医科歯科大学 卒業

H29-H31 東京医科歯科大学 循環器内科 講師

H31～ AOI国際病院

**資格/
専門医**

日本循環器学会/循環器専門医

日本不整脈心電学会/不整脈専門医

日本内科学会/総合内科専門医・指導医

日本人類遺伝学会/臨床遺伝専門医

医学博士

植込み型除細動器/ペースングによる心不全
治療研修終了

Q1. 医師を志したきっかけ、また【循環器内科】を選択した理由をおしえてください

はっきりしたきっかけは特にはありませんが、中学の頃に医師になると決めました。人間の体の中で、心臓は唯一目に見えて“動いている”臓器です。そのことに感動したので、循環器内科に決めました。

Q2. 循環器内科とはどのような診療科ですか？

主に心臓、そして血管についての病気を診る専門の内科です。血液を送り出すポンプである心臓と、血液の通り道である血管など、血液の流れに関する病気を総合的に診察します。

血液が全身の血管をぐるぐると循環することから「循環器」と名付けられています。

主な病気は、**高血圧症・心筋梗塞/狭心症・不整脈・心不全・動脈硬化**などです。それらに影響を及ぼす生活習慣の指導なども含めた、総合的な診療にあたります。

Q3. 不整脈先端治療センターで診療している、具体的な疾患などをおしえてください

不整脈とは、心臓の動きが一定ではなく異変がある状態を指します。

心臓は一定のリズムを保って動いていますが、このリズムが遅すぎる・速すぎる・乱れているなど、不安定な場合は不整脈の可能性が高いです。不整脈にはさまざまな種類があり、健康な人でも起こる場合や、命に関わる深刻な状態もあります。

具体的には、健康診断で指摘されることも多い“**期外収縮**”や、近年増加している“**心房細動**”などです。なぜ不整脈が起こっているかといった原因を突き止め、適切な処置を行っています。

Q4. 診療にあたり心掛けていることはありますか？

丁寧で分かりやすい説明と、安全で納得のできる質の高い診療を心がけています。

関係が一方通行にならないように、**誠心誠意の気持ち**を持って真摯に診療にあたりたいと思っています。

川端 美穂子 先生に聞きました

Q5. 日々の業務内容をおしえてください

外来担当日は外来診療を行っています(月曜午後、木曜午前)。また、金曜午後のデバイス外来(ペースメーカーチェック外来)を担当しています。

外来に出ていないときは、入院中の患者さんや緊急の患者さんの診療、カテーテルアブレーション(不整脈の治療)、ペースメーカーや植え込み型除細動器の植え込み手術、種々の検査結果の確認等々をしています。

また、毎日循環器内科のスタッフでカンファレンスを行い、チームで情報を共有し最善の診療にあたるように協力しています。患者さんの診療には、**医師、看護師、薬剤師、リハビリテーションを専門とする理学療法士、食事の管理と栄養指導を専門とする栄養士**などとの連携が重要です。これらの職種の者が一緒にカンファレンスを開き、よりよいチーム医療をめざしています。

Q6. 先生のリラックス法やストレス解消法があればおしえてください

あまりストレスを感じないので、家族や友達とおしゃべりしていればそれで十分です。

Q7. 先生が健康を維持するために続けていることはありますか？

何もありません。だめですね。
歩く時は早足で歩くようにはしていますが。

Q8. 好きな言葉・座右の銘はありますか？

「健・絆・癒」 (けん・ばん・ゆ)

この言葉は、先生の敬愛する方が考えた**造語**だそうです。

Q9. 地域みなさま・患者さまに一言おねがいします！

たとえ症状がなくても、**健診で血圧が高かった、心電図が正常ではなかった**等の指摘をされた場合は放置せず、当科外来に相談してください。**胸痛・動悸・息切れ・むくみ・血圧異常などの症状**でお悩みの方は、ぜひ当科外来を受診してください。**めまい・失神**の原因が循環器の病気であることもよくありますので、症状がある場合はご相談ください。

みなさまが不安なく専門的な医療を受けていただけるように、スタッフ一同チームで迅速に かつ丁寧に 対応いたします。

AOI国際病院 循環器内科DRチーム



左から▶鎌田先生・前田先生・川端先生・平尾先生(センター長)
川島先生・米内先生

健 健康 絆 良好なきずな 癒 いやし

健康を維持し、良好な絆(人間関係)を築き支えあう中で、癒作用を及ぼしていくというモットー

循環器内科 外来担当表

HPに最新の外来担当表をのせています(●女性医師)

	月	火	水	木	金	土
午前	平尾 前田	平尾 鎌田	前田 川島	新 ●川端	平尾 米内	非常勤 (東京医科 歯科大学)
午後	●川端	平尾	米内	川島	鎌田 ペースメーカー 外来(隔週)	

(木)午前：沖重 薫-アンギオ室兼務- (金)午前：中里 祐二-手術室兼務-

AOI国際病院
循環器内科の
詳細はこちらから



患者満足度調査 結果

この度は入院患者さまの【患者満足度調査】にご協力いただきまして誠にありがとうございました。

患者満足度調査を通じ、患者さまの声をお聞きすることで病院の改善点を明確にし、より良い病院作りを行って参りたいと思います。

患者さまへのスタッフの対応に関しては概ねご評価いただいたと思います。

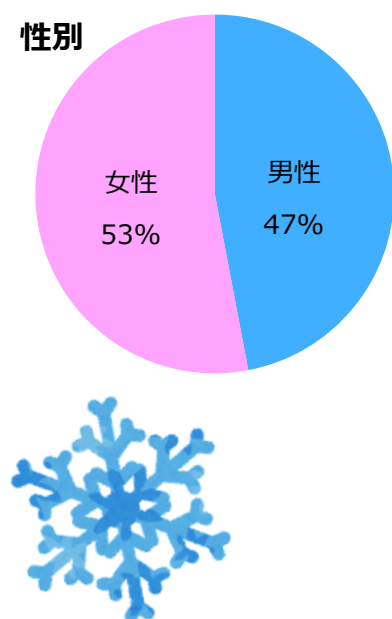
入院環境としてインターネット環境の整備のご意見があり当院でも導入の検討は行っておりますが、まだ実現化できておりません、今後も継続し検討してまいります。

病室・浴室・窓の掃除についての十分にされていないとのご意見が見られ、掃除の徹底など改善をしていきたいと思ひます。

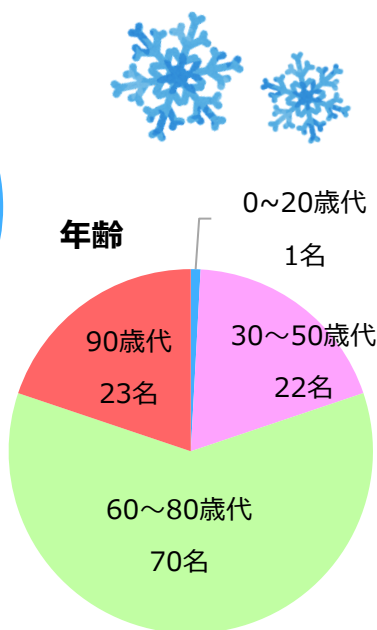
今後も継続しアンケートを実施し患者さまが安心して治療に専念できる環境を整えたいと思ひます。

患者サービス接遇委員会委員長
形成外科部長 医師 名取 悠平

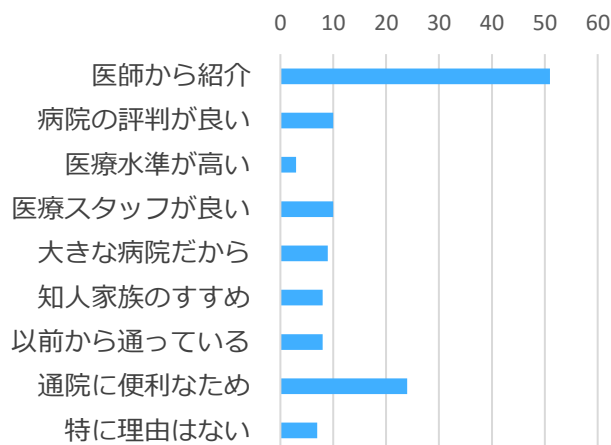
性別



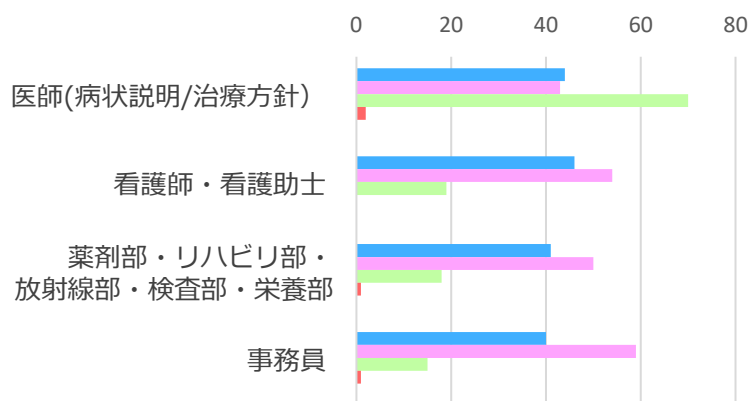
年齢



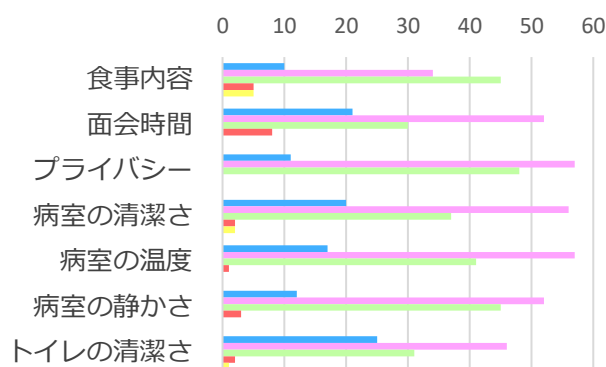
当院を選んだ理由



説明や言動・態度について



入院生活について



■ 非常に満足 ■ 満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 非常に不満

おいしいページ



日が短くなり、風が冷たくなってきました。
この時期のおすすめ食材は「鱈（タラ）」です。



タラの仲間は世界に23種類いますが、単に「タラ」と呼んだ場合は「マダラ」を指します。全長数10cmから2mの中大型種のため、スーパーでは1尾丸ごとではなく切り身で売られていることがほとんどです。

身が雪のように白いことから「鱈」と書きますが、大きな口を開けて他の生物を捕食することから「大口魚」とも呼ばれていました。非常に食欲なことから腹いっぱい食べるという「鱈腹」の語源となったともいわれています。（諸説あり）

脂肪が少なく柔らかい白身で、どんな食材・味付けとも合いやすいため、鍋物、煮物、焼き魚のほか、棒鱈などの干物、フィッシュアンドチップスのような揚げ物、かまぼこなどの練り製品に利用されます。鮮度が落ちやすく、古くなると独特のにおいを発するため、刺身等の生食は水揚げされる漁港周辺に限られます。

《たらちり》

材料：鱈・豆腐・野菜・昆布

作り方：

- ・土鍋に水、昆布を入れて弱火にかける
- ・沸騰直前で昆布を取り出す
- ・鱈・野菜は食べやすい大きさに切り、煮込む
- ・すべての具材に火が通ったら完成♪

さっぱりとポン酢しょうゆでお召し上がりください♪



お好みでパプリカ・玉ねぎを合わせると、彩りよく仕上がります♪



《甘酢あんかけ》

材料：鱈・揚げ油

- ・片栗粉（まぶす用）・（とろみ用小さじ1）
- ・酢・砂糖・醤油・水（各大さじ2杯）

作り方：

- ・鱈は食べやすい大きさに切り、片栗粉をまぶして油で揚げる
- ・酢・砂糖・醤油・水各大さじ2杯、片栗粉小さじ1を合わせ、フライパンで煮詰める
- ・とろみがついたら揚げた鱈にかけて完成♪

☆オリーブオイルとニンニクで焼いてアクアパッツァ
☆カレー粉を振って焼くとカレームニエル
☆野菜やキノコと一緒にホイルに包んで焼く包焼きと色々楽しめます



編集後記

当院の院長が、昨年2023年8月11日、富士山登頂に成功しました！表紙は、その際に撮影したご来光の写真です。院長は御年65才。登ると決めた時から、体力づくりを頑張っていました。両足にアンクルウェイト(おもり)をつけて日常生活を過ごしたり、院内での移動もなるべく階段を使ったり。『途中で怪我でも負ったら大変です…』と体調を心配する職員もおりましたが、やると決めたらやりきる当院の院長。西川先生、田部井先生と共に、富士登山に挑みました。



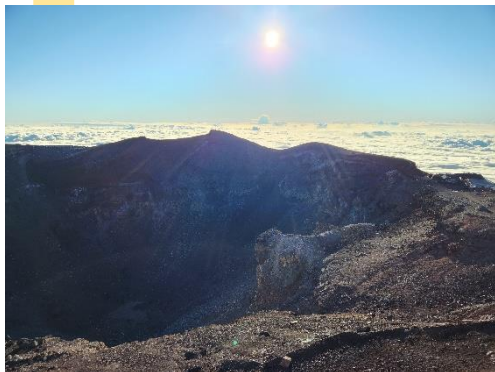
最初はなだらかな道ですが、だんだん険しい斜面になっていきます。トレッキングポールを上手に使って登っていきます。



途中の山小屋で休憩し、まだ暗い山道をライトを頼りに進んでいきます。足元が暗いため、油断大敵。集中しながら登ります。



＼さあ！山頂です！！／



山頂真ん中の火口
【おかま】もこの通り
きれい・くっきり見えます



天候に恵まれ、ご来光を見ることが
できました



ふもとの夜景はこんな感じ
市内の灯が幻想的です



下山時、ちょっ
とだけ馬に乗り
ました

院長は今回、人生初の富士登山だったそうです。私も、今やりたいと思っていることは後回しにせず、目標に向かって計画し、やりきろう！とエールとパワーをもらいました。

院長先生、西川先生、田部井先生、お疲れ様でした。

地域医療連携室 相木

表紙・編集後記【写真提供】

院長 古川 良幸

消化器外科 西川 勝則

患者さまのご紹介、ご予約のお問い合わせは
地域医療連携室 TEL 044-277-5519(直通)
FAX 044-277-5747